トラクタ

取扱説明書

GS21・23・25
キャビン仕様



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはトラクタをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのでご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は，ほ場でのロータリ耕うん作業，農業用作業機を装着しての農作業及び路上でのトレーラけん引作業にご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象となりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

もくじ

表示ラベルについて ……1

仕様 ……2

主要諸元 ……3

各部の名称 ……4

各部の取り扱い ……5

1．スタータスイッチ …… 5
2．ドア …… 5
3．リヤウインドウ …… 6
4．内気・外気切替レバー …… 7
5．ワイパ・ウォッシャスイッチ …… 8
6．作業灯スイッチ …… 8
7．ルームランプ …… 9
8．カーステレオ …… 9
9．アンテナ …… 9
10．カップホルダ …… 9
11．バックミラー …… 10
12．エアコン …… 10

キャビン電装 ……13

1．ヒューズボックス …… 13
2．配線図 …… 14

手入れのしかた ……15

1．定期点検整備表 …… 15
2．コンプレッサベルト …… 16
3．内気フィルタ …… 16
4．外気フィルタ …… 17
5．コンデンサフィン
　コンデンサスクリーン …… 17
6．ウォータホース
　エアコン配管 …… 18
7．クーラガス …… 19
8．ドアヒンジ
　リヤウインドウヒンジ …… 19
9．バッテリー交換 …… 19
10．不調時の処置 …… 20
11．消耗品 …… 21
12．給油・給脂・給水表 …… 22

表示ラベルについて

以下に説明する表示ラベル以外はＧＳトラクタ全仕様共通です。ここで説明する表示ラベル以外のものはＧＳトラクタ本機の［**安全作業のために**］の［**２．表示ラベルについて**］で説明しています。

部品番号		部品名称	適　　用
①	1044　6165　000	マーク（輪距）	キヤビン仕様のみ
②	1044　6163　000	警告マーク（キャビン）	キヤビン仕様のみ
③	1038　5153　001	注意マーク（ＡＢターン）	２柱フレーム仕様と位置が異なる
④	1038　2764　001	注意マーク（停止）	２柱フレーム仕様と位置が異なる
⑤	0960　3200　032	警告マーク（トラクタ）	２柱フレーム仕様と位置が異なる
⑥	1208　6266　001	警告マーク（シートベルト）	キヤビン仕様のみ

④

⚠ 注　意

○ トラクタから降りる時はエンジンを停止してください。
乗り降りする時変速レバーに触れると、トラクタが動き出すことがあります。

10382764001

⑤

⚠ 警　告

ケガや死亡事故を起こさないために

□ エンジンを始動する前に
- 本機や作業機の周囲から人を遠ざけてください。
- すべてのカバーをセットして、安全フレームをおこしてください。
- 座席に座り、駐車ブレーキをかけ、シートベルトをしてください。
- 変速レバー及びＰＴＯレバーを《Ｎ》（中立）にして、クラッチペダルを踏んでください。
- 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気をしてください。

□ 正しい操作方法で
- 運転する時は、本機や作業機に人や物をのせないでください。
- エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
- 公道を走行する時は、作業機を装着しないでください。

□ 転倒防止
- ほ場の出入り、アユミの上、道路を走行する時は、左右のブレーキペダルを連結してください。デフロックは使用しないでください。
- 発進、旋回、坂道、傾斜地、荒地では低速で運転してください。
- 傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。下り坂ではエンジンブレーキを使用し、クラッチ操作や変速操作はしないでください。

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

- 路肩に寄りすぎないでください。軟弱な路肩、草の生い茂っている所は走行しないでください。
- あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。
- 自動車への積込み・積降ろし、高あぜ・溝越えは、アユミを使用し、上がる時は後進、降りる時は前進で、低速で行なってください。クラッチ操作や変速操作はしないでください。
- けん引作業はドローバを使用してください。

□ 停止する時は
- 平坦な場所で、駐車ブレーキをかけ、変速レバー及びＰＴＯレバーを《Ｎ》（中立）にし、作業機を降ろした後、エンジンを停止してください。座席を離れる時はキーを抜取ってください。

□ 清掃・点検・整備
エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- 作業機を上げて、清掃・点検・整備をする時は、油圧をロックして、さらに作業機の下に固定脚を置いてください。
- ラジエータキャップを開けたり、エンジン回りを清掃・点検・整備する時は、エンジンが冷えてから行なってください。
- 火災防止のため、エンジン、マフラ、燃料タンク周囲のワラや草等を掃除してください。

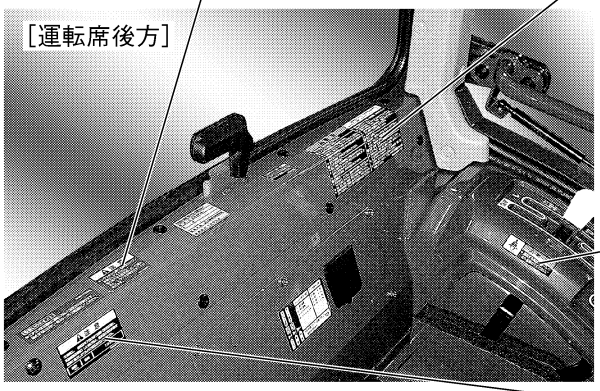
09603200032 トラクタ

⑥

12086266001

⚠ 警　告

● 運転をする時は、シートベルトを締めてください。



①

⚠ 注　意

本車両は，　後輪距を下表の通り調整（調整要領は，取扱説明書参照）した時以外は，道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	１０３０

10446165000



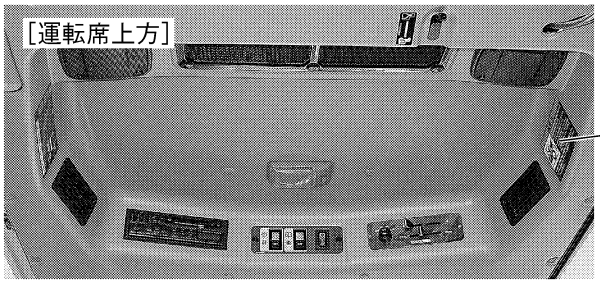
③

オートブレーキターン取扱いのポイント 10385153001

- オートブレーキターンを使用する時は、左右のブレーキペダルの連結を外してください。
- オートブレーキターンレバーを操作する時は、副変速レバーを《低速》に入れ、前輪タイヤを直進状態にしてください。
- 副変速が《高速》の時は、オートブレーキターンレバーの《入》操作は、できません。また、オートブレーキターン《入》では、副変速レバーを《高速》にすることはできません。無理に操作しないでください。

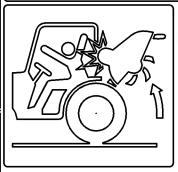
⚠ 注　意

○ 道路走行、自動車への積み降ろし、ほ場への出入り、傾斜地作業、フロントローダ作業は　オートブレーキターンを使用しないでください。



②

⚠ 警　告



傷害事故や機械の破損を防止するために

□ 作業機を装着するときは
- ●ポジションコントロールレバーの上限ストッパで上げ高さを規制してください．
- ●ＭＡＣ仕様の場合はクイックアップレバーおよびバックアップスイッチ《入》を使用する前に上げ規制ボリュームで上げ高さを規制してください．

●本機および作業機の取扱い説明書をよく読み正しく装着してください．
●キャビン装着機ではリヤウインドウの開放時についても当たらないようにしてください．

10446163000

仕　様

仕　様													
型式名	区分	エンジン		ステアリング			逆転PTO	制御システム			キャビン	タイヤ	
		エンジン型式	kW〈PS〉エンジン出力	ダイクイックターンヤ	パワステアリング	オートブレーキターント		PAC	JAC	MACS		標準	
												前輪	後輪
GS21	X	S3L2 14AC	15.4 (21)	○	○	○	○	○			○	6-14	8.3-24
	XJ			○	○	○	○		○		○	6-14	8.3-24
	XM			○	○	○	○			○	○	6-14	8.3-24
GS23	X	S3L2 15AC	16.9 (23)	○	○	○	○	○			○	6-14	9.5-22
	XJ			○	○	○	○		○		○	6-14	9.5-22
	XM			○	○	○	○			○	○	6-14	9.5-22
GS25	X	S3L2 16AC	18.4 (25)	○	○	○	○	○			○	6-14	9.5-24
	XJ			○	○	○	○		○		○	6-14	9.5-24
	XM			○	○	○	○			○	○	6-14	9.5-24

主要諸元

型式名			三菱GS21	三菱GS23	三菱GS25
区分			XM	XM	XM
駆動方式			4輪駆動		
機体寸法	全長 mm (ロワリンク先端)		2790		
	全幅 mm (後輪外側)		1230	1265	1270
	全高 mm		1945		1970
	最低地上高 mm		360		
機体質量[重量] kg			1060	1070	1080
エンジン	型式名		S3L2-14AC	S3L2-15AC	S3L2-16AC
	種類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル		
	総排気量 L{cc}		1.318{1318}		
	出力/回転速度 kW{PS}/rpm		15.4{21}/2500	16.9{23}/2500	18.4{25}/2600
	使用燃料		ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量L		23		
	バッテリ V・Ah		12・36		
走行部	タイヤ	前輪	6-14		
		後輪	8.3-24	9.5-22	9.5-24
	軸距 mm		1450		
	輪距	前輪 mm	930		
		後輪 mm	1030		
	クラッチ形式		乾式単板		
	ブレーキ形式		ディスク式(湿式)		
	かじ取方式		パワーステアリング(オービットロール)		
	変速方式		常時噛合い式+選択摺動式		
	変速段数		前進8段、後進8段		
	走行速度	前進 km/h	0.82～14.5		0.81～14.5
		後進 km/h	0.76～13.3		0.75～13.3
	最小旋回半径m		1.9		
PTO	回転速度 rpm	正転	566、816、1310		589、849、1362
		逆転	952		990
	軸径 mm		JIS35		
昇降装置作業機	制御方式		ポジションコントロール		
	装着方式		3点リンク JIS 0		

※前輪，後輪共にタイヤの組み替えで輪距を変えたりしないでください。
［キャビン仕様機］は輪距の変更はできません。

各部の名称


ワイパ・
ウオッシャ（後）
作業灯（前）
バックミラー
作業灯（後）
方向指示灯
ドア
フロントガラス
ワイパ・
ウオッシャ（前）
ドアヒンジ
ドアハンドル
ステップライト（作業灯）
スピーカ
内気循環導入口
内気・外気切替レバー
サイド
ベンチレータ
エアコン
操作部
ルームランプ
カーステレオ
フロントベンチレータ
ワイパ・ウオッシャスイッチ（前）
ワイパ・ウオッシャスイッチ（後）
作業灯スイッチ

各部の取り扱い

1．スタータスイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆トラクタを使用しない時はキーを抜いておいてください。

・《 切》（停止）

キーをこの位置にすると電源が切れエンジンが停止します。

キーの着脱ができます。

・《ACC》（アクセサリ）

［キャビン仕様］のカーステレオが使用できます。

・《 入》（予熱）

キーをこの位置にすると電源が入りメータ内のグローランプが点灯し，エンジンが予熱されます。予熱が完了するとグローランプが消灯しますので始動操作をします。

グローランプ点灯時間

冷却水温10℃以上…約１秒

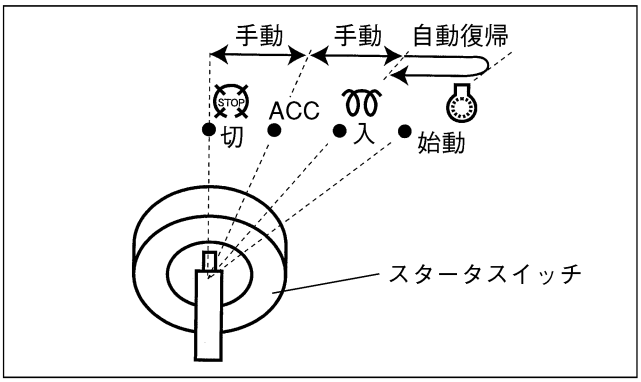
冷却水温10℃以下…約３秒

・《 始動》

キーをこの位置にするとエンジンが始動します。エンジン始動後手を放せば自動的に《 入》にもどりエンジンが運転状態になります。

取扱いのポイント

●クラッチペダルをいっぱい踏込まないと，エンジンは始動しません。



2．ドア

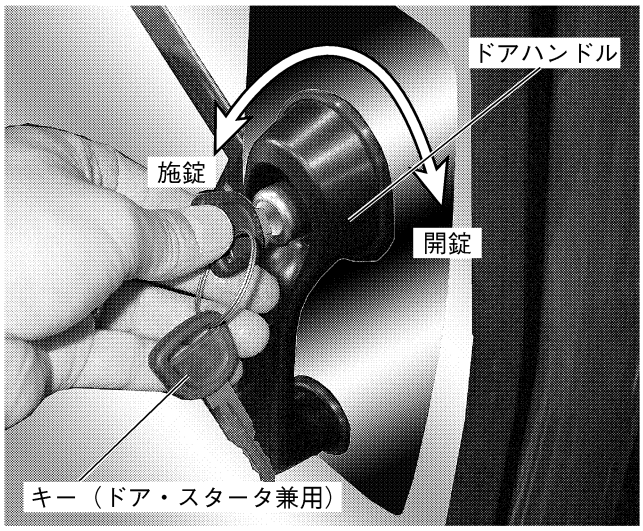
⚠警告 傷害事故防止のために

◆半ドアの状態で運転すると，急にドアが開いて事故になることがあります。

走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

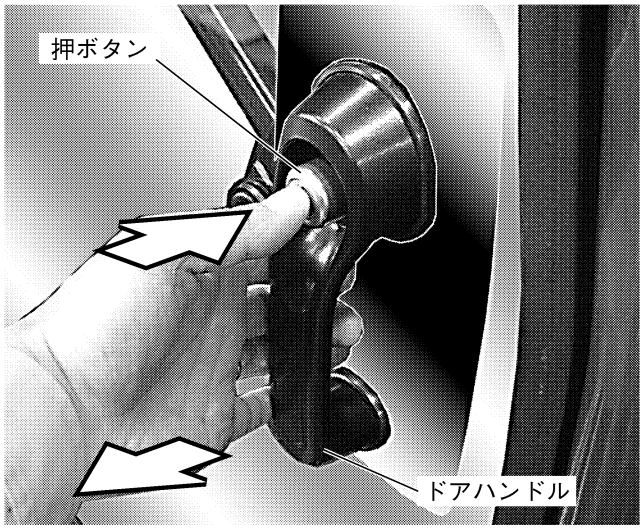
❶ドアの施錠・解錠

キーを差込み，左方向に回すと施錠・右方向に回すと解錠となります。



❷車外からの開けかた

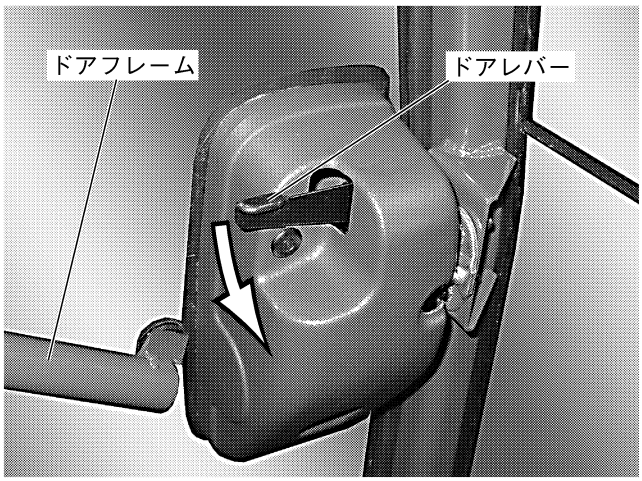
押ボタンを押しながらドアハンドルを引くと，ドアが開きます。



❸車内からの開けかた

ドアレバーを押すと，ドアが開きます。

また，閉じるときはドアフレームを引きます。

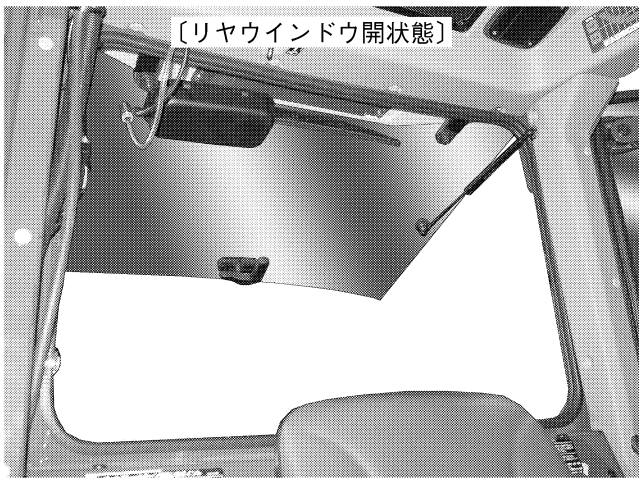


3．リヤウインドウ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆リヤウインドウを開く時は周囲の安全を確認してください。急に開くと傷害事故になることがあります。

◆リヤウインドウ後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドウの開閉に注意してください。（開放時頭などを打つおそれがあります。）



リヤウインドウは，跳ね上げ式です。

❶開けかた

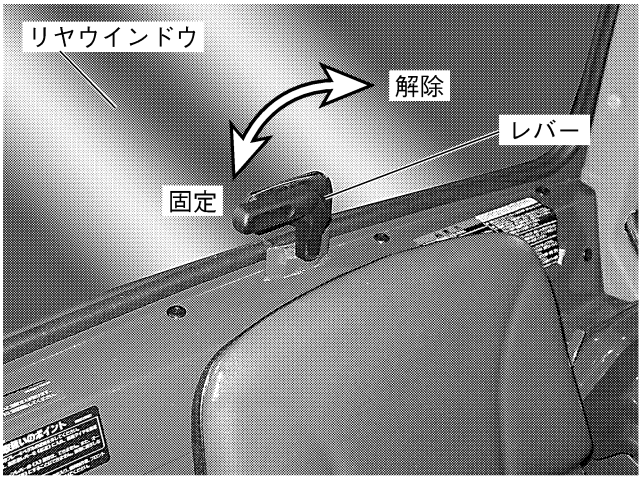
⑴ レバーを時計回りに回します。

⑵ レバーを外側に押出して，リヤウインドウを開けます。

❷閉じかた

⑴ レバーを手前に引き，リヤウインドウを閉じます。

⑵ レバーを手前に引きながら反時計回りに回し，確実に固定します。



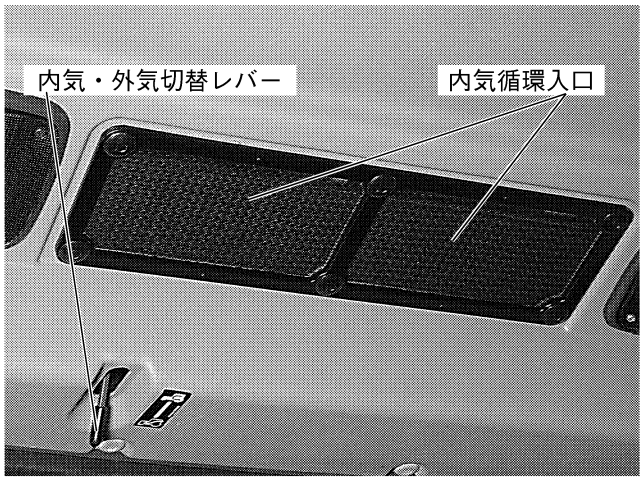


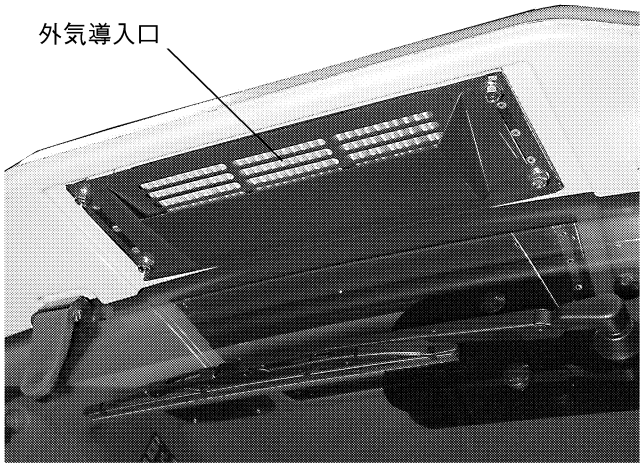
取扱いのポイント

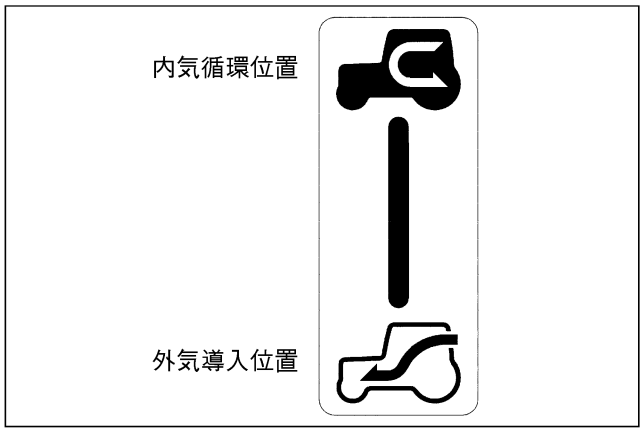
- 作業機によっては，リヤウインドウが開けられないことがありますので，事前に確認して行なってください。
- 狭い場所でリヤウインドウを開，閉する時は充分確認して行なってください。
- リヤウインドウを開放したままでの道路走行は行わないでください。振動でガラスが破損することがあります。リヤウインドウを閉じ，レバーを確実に固定してください。
- 寒冷時にドアおよびリヤウインドウが凍結している場合は，無理に開けるとゴムがはがれたり，損傷することがあります。ぬるま湯で解凍してから開けるようにしてください。
- ドアにぶらさがったり，作動範囲以上無理に押し開かないでください。

4．内気・外気切替レバー

ファンを回した時に室内の空気を循環させるか，外気を導入するかを選択します。



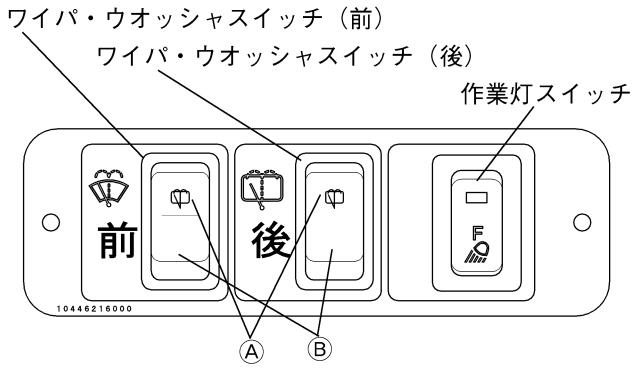




内気循環位置……早く冷暖房をきかせたい時や強くきかせたい場合に使用します。

外気導入位置……ガラスが曇る場合に使用します。

5．ワイパ・ウォッシャスイッチ(前),(後)



(1) ワイパの操作

スイッチⒶ側を押すとワイパが作動し，スイッチⒷ側を押すとワイパが停止します。

(2) ウォッシャの操作

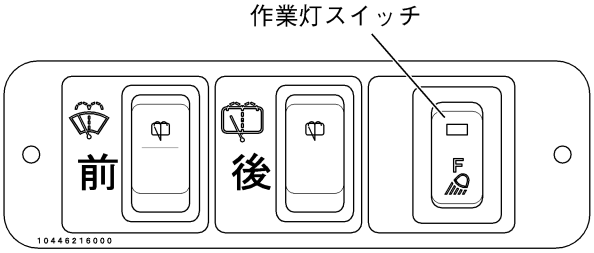
・ワイパ作動中……スイッチⒶ側をさらに押すと，押している間，ウォッシャ液が噴射します。

・ワイパ停止中……スイッチⒷを押すと，押している間，ウォッシャ液が噴射します。

取扱いのポイント

- キーが《 切》の時は，作動しません。キーを《 入》またはエンジンを始動してから操作してください。
- ウォッシャは前後どちらのスイッチを押しても前後共同時に噴射されます。
- ガラスがほこりや泥で汚れたままでワイパを使用しますとガラスに傷が付くことがあります。洗車または，ウォッシャ液を噴射してから使用してください。
- 寒冷時にワイパブレードが凍結してガラスに張りついたままでワイパを使用すると，ワイパが作動できない為，内蔵のサーキットブレーカが作動します。作動した場合，ワイパブレードの凍結を融解させ，しばらく時間が経過してから使用して下さい。使用する前にワイパブレードの状態を点検してください。
- ワイパ使用中，積雪等によりワイパブレードが途中で止まった時は，ワイパスイッチを「切」にしても電気が流れておりキーを《 切》にしないとヒューズが切れることがあります。トラクタを安全な場所に停止してキーを《 切》にして，ワイパブレードが作動できるように積雪等を取除いてください。
- ウォッシャ液を連続で60秒以上噴射したり，ウォッシャ液が出ない時に20秒以上使用すると，ウォッシャモータが焼付くことがあります。
- 寒冷時にウォッシャを使用する時は，ガラスに噴射したウォッシャ液が凍って視界を妨げることがありますので，先にウインドウガラスをヒーターにより暖めてから使用してください。
- ウォッシャ液は，市販のウォッシャ液を使用してください。寒冷時に清水のみで使用すると凍結し，ウォッシャタンク，ホース等を破損することがあります。

6．作業灯スイッチ



キーを《 入》にし，作業灯スイッチ上側を押すと，作業灯，ステップライトとスイッチ内のランプが点灯します。

下側を押すと消灯します。

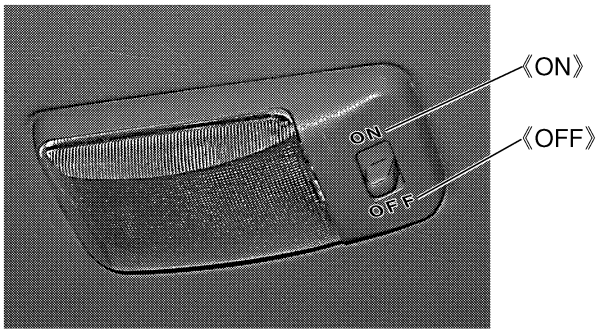
取扱いのポイント

- 作業灯を使用する時は，バッテリがあがらないようにエンジンを始動してから使用してください。
- バッテリあがりの原因となりますので，アイドリングで長時間運転をする場合には作業灯を消してください。
- 道路走行時は，作業灯を消してください。
- 作業灯は，①のボルトとナットで左右方向を②のボルトで上下方向を変えることができるので

適宜，調整します。（但し，前側作業灯は左右方向は変えることができません。）



7．ルームランプ



キャビン室内の照明に使用します。

・《ＯＮ》……ランプが点灯します。

・《ＯＦＦ》……ランプが消灯します。

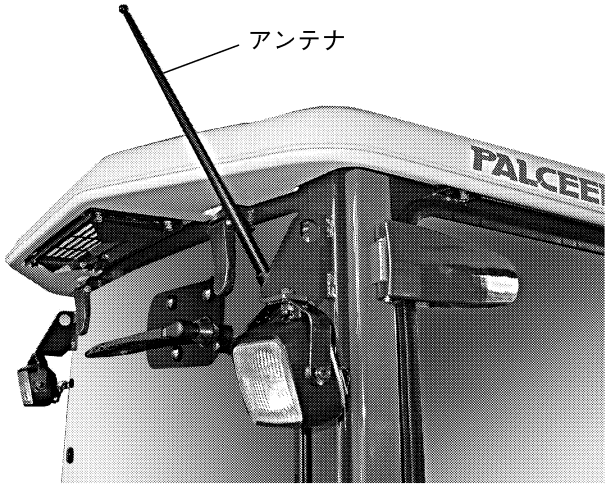
8．カーステレオ

別添のカーステレオ用の取扱説明書を参照してください。



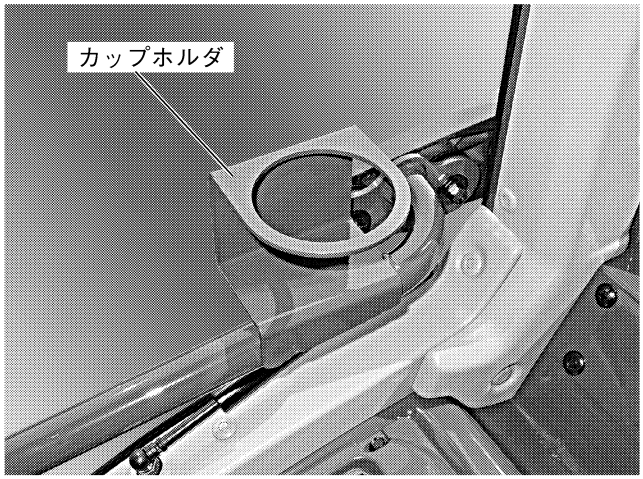
9．アンテナ

ラジオの受信アンテナです。



10．カップホルダ

飲料等のカップをホルダに入れて固定できます。

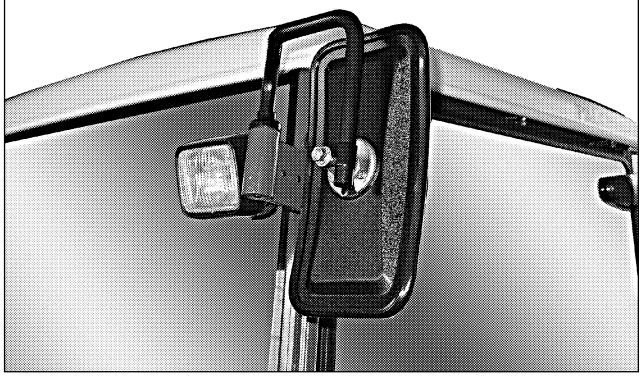


11．バックミラー

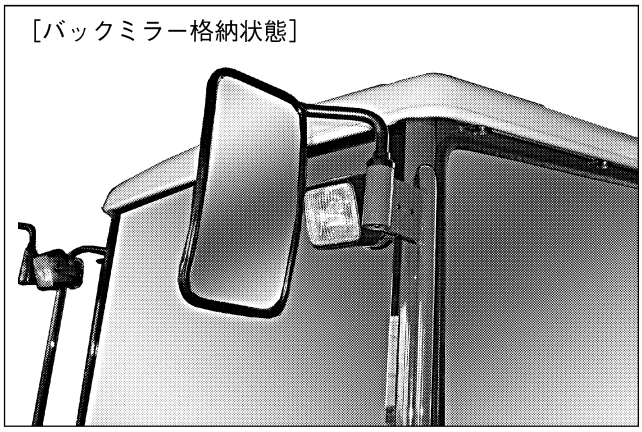
バックミラーは，運転席に座って見やすい位置に調節します。

狭い所へトラクタを格納する場合には，バックミラーが接触しないように前方へ倒すことができます。

［バックミラー通常状態］



［バックミラー格納状態］



取扱いのポイント

- **バックミラーは通常作業時の位置でキャビンより側方へ張り出していますので，狭い場所でのすれ違いや，本機格納時接触しないよう注意してください。**
- **道路走行時は，バックミラーを倒したままで運転しないでください。**

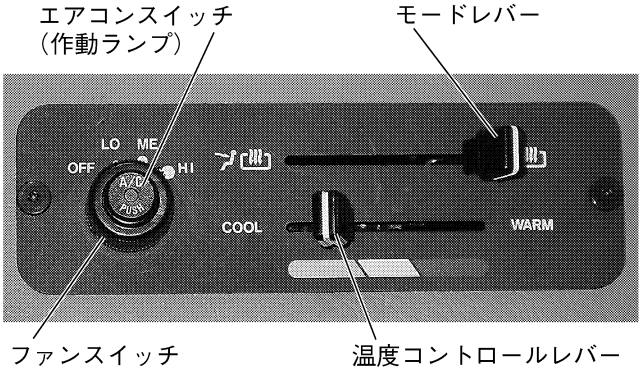
12．エアコン

⚠警告　ヤケド防止のために

◆ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

◆異常を認めたとき，修理を怠るとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

❶操作部



(1)　エアコンスイッチ



このスイッチを押してエアコンを「入」・「切」します。エアコン作動時は，中央のランプが点灯します。

(2)　モードレバー



この位置のときフロントベンチレータ・サイドベンチレータ全ての吹出口より風が吹きだします。

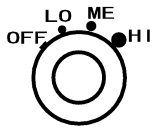


この位置のときフロントベンチレータの吹出口より風が吹きだします。

(3)　温度コントロールレバー

温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に寄せると温風，左に寄せると冷風が出ます。

⑷ ファンスイッチ
風量を調節します。



《OFF》:ファンが作動しません。
《LO》:微風。
《ME》:中間風。
《HI》:強風。

❷暖房

⑴ モードレバーを 又は にします。
⑵ 内気・外気切換えレバーを外気導入にします。
早く室温を上げたいときは内気循環にします。
⑶ ファンスイッチ（ＬＯ・ＭＥ・ＨＩ）と温度コントロールレバーを調整し，快適な温度にします。

❸冷房・除湿暖房

⑴ モードレバーを にします。
⑵ 内気・外気切換えレバーを外気導入にします。
⑶ エアコンスイッチを押し［入］にします。
⑷ ファンスイッチ（ＬＯ・ＭＥ・ＨＩ）を作動させます。
⑸ 温度コントロールレバーをＣＯＯＬ又は中間位置に調整し，快適な温度にします。

❹頭寒足熱

冷房・除湿暖房の運転状態で，温度コントロールレバーを中間位置で使用すると，顔が涼しく足元が暖かい（頭寒足熱）快適な状態が得られます。

❺デフロスト

フロントガラスの曇り及び凍結解除するときは，
⑴ フロント吹出口を開き，フロントガラスの方向に向けます。
⑵ モードレバーを にします。
⑶ 内外気切換えレバーを外気導入にします。
⑷ ファンスイッチをHI，温度コントロールレバーをWARM（右側）にします。

取扱いのポイント

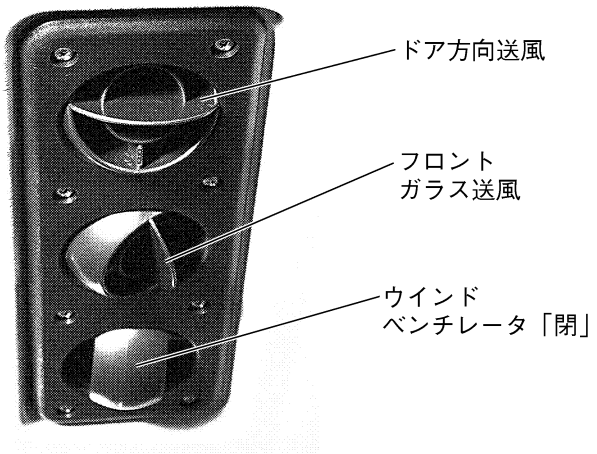
- 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
  また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
- 冬期において不凍液を使用しない場合は，運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
  （冷却水の排水のしかたは，トラクタ本機の取扱説明書を参照してください。）
- ウォータホースは２シーズンごとに交換を受けてください。
- 日常点検
  次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
  （ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。）

＊ウォータホースの傷付き，ひびわれ，ふくらみ。
＊ウォータホースジョイント部の水漏れ。
＊ウォータホースの保護チューブ及び緑ゴムの外れ，破損。
＊本体取付けボルトの緩み，ブラケットの破損。

- ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。
- 冷房し始めた時，一時的に吹出し口から霧が吹出したように見えることがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生したもので異常ではありません。
- エンジン冷却水温が低いときに高温側にしても温風は出ません。
- 長時間作業される時，またはタバコを吸われている時は，時々，室内の換気をしてください。
- ウインドウガラスが曇ると視界を妨げますので，やわらかい布で水気をふき取ってください。
- 夏期ヒータを使用しないときは，熱気で室内温度が上昇しないように，温度コントロールレバーをCOOL（左端）に寄せてください。

- エアコンは，温度を下げるばかりでなく，湿度も同時に下げることができます。冷やしすぎると健康上良くありませんので少し涼しいと感じる温度（外気温度との差５～６℃）に調節してください。また，冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。
- エアコンスイッチ，送風量調節スイッチは，「切」の位置にしてから格納します。
- エアコンは，シーズンオフでも１ケ月に１回，10～15分間運転してください。
  エンジンは低回転にした状態で温度調整レバーは「冷」の位置，送風量調節スイッチは「弱」の位置で，エアコンスイッチを「入」にします。運転することにより冷媒ガスの漏れを防ぎ，エアコンを常時最良の状態に保つことができます。

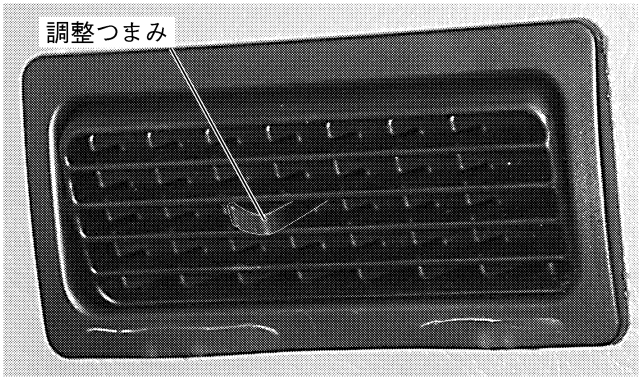
❻フロントベンチレータ



(1) 風の方向は，吹出し口により自由に調整できます。
デフロスタ（フロントガラスのくもり止め）として使用する場合，吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。

(2) サイドベンチレータからの風量を増したいときは，[閉] にしてください。

❼サイドベンチレータ



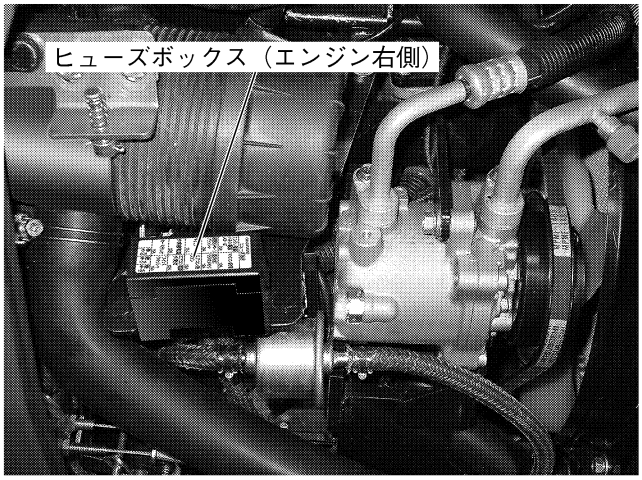
(1) 調整つまみで任意の方向に向けてください。

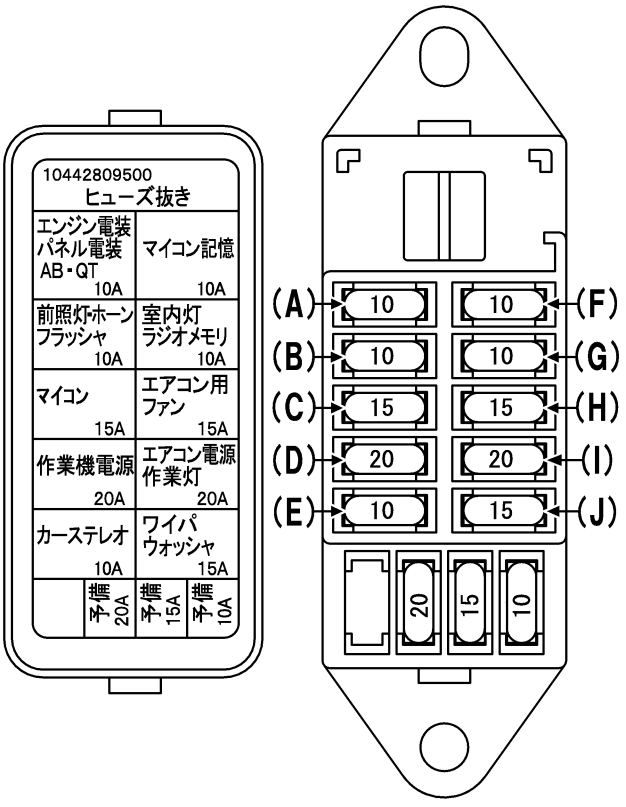
キャビン電装

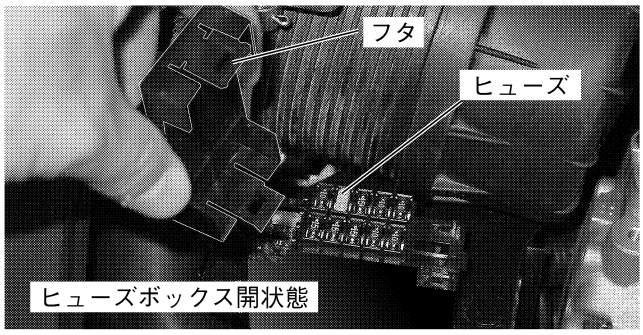
1．ヒューズボックス

［キャビン仕様機］のヒューズボックスは，それ以外の仕様のものと異なります。ここでは，それぞれの機能について説明します。尚，その他の取り扱いについては，トラクタ本機の取扱説明書中の「**電装関係の取り扱い**」の項を参照してください。

❶ヒューズボックス位置







(1)　Aのヒューズ溶断（10A）
- 燃料計・水温計が作動しません。
- エンジン関係のモニタランプが作動しません。
- スタータは回転しますがエンジンが作動しません。
- エンジン回転中に溶断するとエンジンが停止します。
- Qターンが作動しません。
- ＡＢターンが作動しません。

(2)　Bのヒューズ溶断（10A）
- 前照灯が点灯しません。
- ホーンが鳴りません。
- 方向指示灯が点灯しません。

(3)　Cのヒューズ溶断（15A）
- マイコン機能が作動しません。

(4)　Dのヒューズ溶断（20A）
- 作業機用電源が作用しません。

(5)　Eのヒューズ溶断（10A）
- カーステレオが作動しません。

(6)　Fのヒューズ溶断（10A）［MAC仕様］
- マイコンの設定が一部消去します。

(7)　Gのヒューズ溶断（10A）
- 室内灯が点灯しません。
- ラジオの設定が消去します。

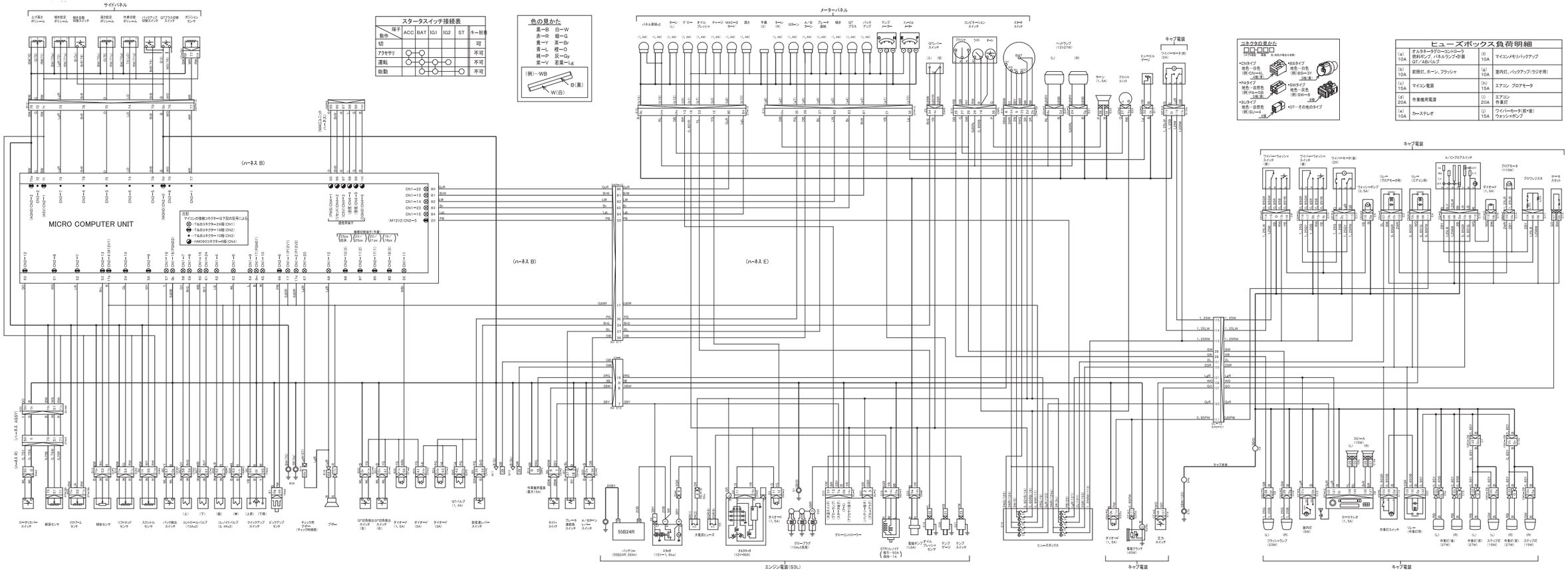
(8)　Hのヒューズ溶断（15A）
- エアコンのファンが作動しません。

(9)　Iのヒューズ溶断（20A）
- エアコンが作動しません。
- 作業灯が点灯しません。

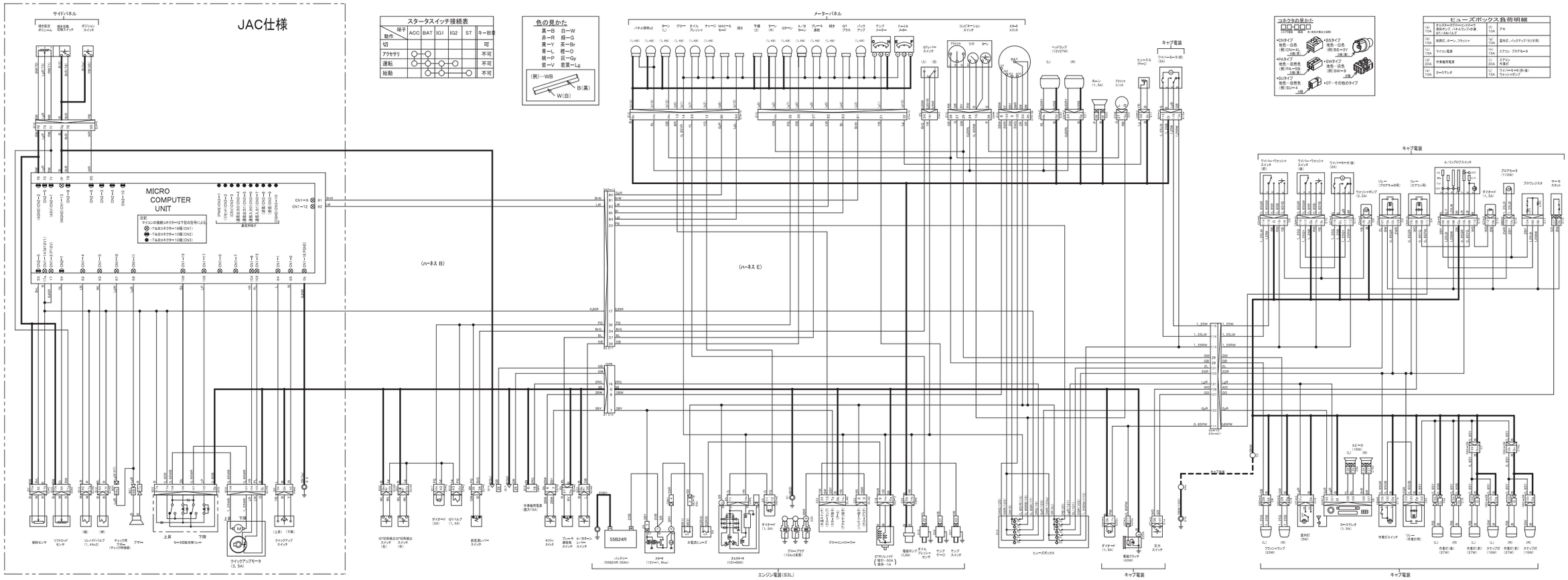
(10)　Jのヒューズ溶断（15A）
- ワイパ・ウォッシャが作動しません。

2．配線図

❶ MACキャビン仕様



❷ PAC・JACキャビン仕様



手入れのしかた

・工場から出荷のときは正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じますので点検・再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整・整備する時は，トラクタを平坦な広い場所に置き，駐車ブレーキをかけ，作業機を降ろし，エンジンを止め各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジンまわりの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
◆作業機を上げて，掃除・点検・調整・整備する時は，作業機降下速度調節レバーを《固定》にし，作業機が降りないことを確認し，作業機の下に固定脚を置いてください。
◆取外したカバーは，全て取付けてからエンジンを始動してください。
◆定期点検整備表に記載されていない部所の点検・整備は「お買いあげ先」へ申しつけてください。

1．定期点検整備表

・正常な機能を発揮し，いつも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**を参考に点検・整備をします。
・**「定期点検整備表」**は一般的な目安です。異常を生じたときはその都度，調整をします。
・**表示記号の説明** ○……トラクタを使用する前に始業点検を行い調整・補給・掃除などの処置をします。
◎……指定時間ごとに点検し，調整・補給・掃除などの処置をします。
●……指定時間ごとに交換します。

点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔					備考	参照ページ
		運転前	50時間	100時間	200時間	300時間		
コンプレッサベルト	点検・調整・交換			◎			ベルト弛み18～20㎜に調整し，ベルトの伸び，損傷（亀裂）があれば交換	16
内気フィルタ	点検・掃除・交換			◎				16
外気フィルタ	点検・掃除・交換			◎				17
コンデンサフィン	点検・掃除			◎			ゴミの多い所では運転前に点検	17
コンデンサスクリーン	点検・掃除	○						17
ウォータホース	点検・交換						1年毎に点検，2年毎に交換 (「お買い上げ先」で点検を受けてください。)	18
エアコン配管	点検						1年毎に点検。「お買い上げ先」で点検を受けてください。	18
ウォッシャ液	点検・補充						少なくなったら補充してください。	18
冷媒量	点検・補充						冷えが悪くなったら「お買い上げ先」で点検を受けてください。	18
ドアヒンジ	点検・注油						必要に応じて点検	19

取扱いのポイント

- エンジンオイル等の油脂類および不凍液を交換して廃却する時は，廃却設備のある所で廃却処理してください。
- 部品（バッテリ等）または機械を廃却する時は「お買いあげ先」にご相談ください。

2．コンプレッサベルト

⚠警告 傷害事故防止のために

◆コンプレッサおよびレシーバへのスチーム洗浄は，冷媒ガスの圧力が上昇して危険ですので避けてください。
◆エンジンが冷えてからボンネットをオープンしてください。
◆点検をするときは，エンジンを停止してエンジンが冷えてから，行ってください。

- **コンプレッサベルトはエンジンルーム内にあります。**

❶ 点検……

(1) コンプレッサベルトのタワミは，下図のように中央部を押して｛押す力約98N（10kgf）｝18～20㎜の範囲であれば良好です。

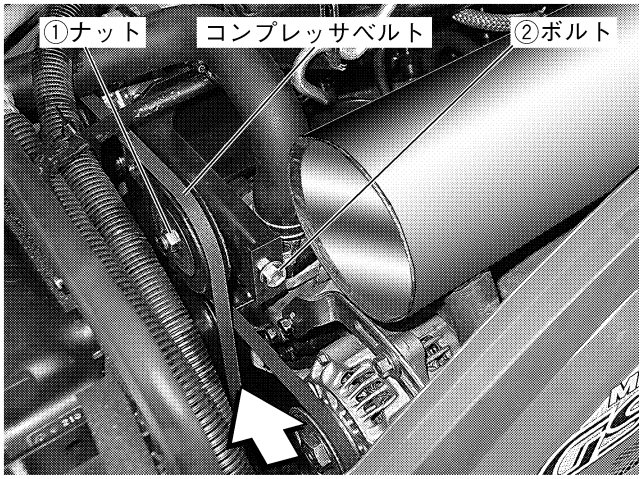
❷ 調整……

(1) アワメータが100時間経過後，コンプレッサベルトの張り調整を行います。

1）テンションプーリの①ナットをゆるめます。
2）テンションプーリの②ボルトを右に回して調整します。
3）テンションプーリの①ナットを締付けます。

締付トルク　44～54N･m（4.5～5.5kgf･m）

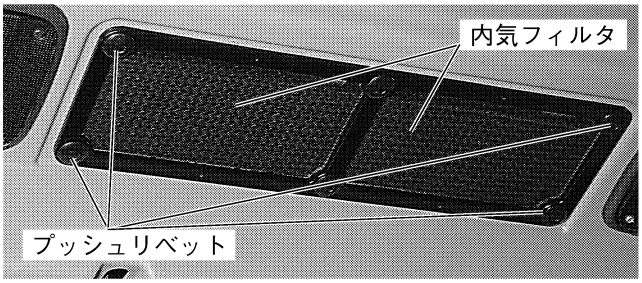
- **損傷がある場合，張り調整代がなくなった場合は交換します。**



この部分を押してタワミを点検

3．内気フィルタ

フィルタが汚れて目詰まりすると，吹出し風量が少なくなりますので，水洗いまたは，圧縮エアでフィルタの網目を損傷させない様に汚れを落とします。

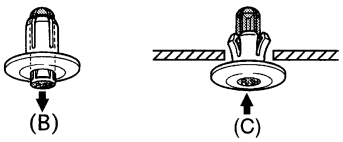


❶ 内気フィルタを取外すには，プッシュリベットの（A）部を少し押してから，抜き取ります。（6個）

プッシュリベットを抜き取ると内気フィルタは外れます。



❷ 取り付け方は，内気フィルタを元の位置に押し付け，プッシュリベットで固定します。固定の仕方は，プッシュリベットの中央（B）部を少し押出し，室内エアフィルタにプッシュリベットを差込んでから中央（C）部を押し固定します。



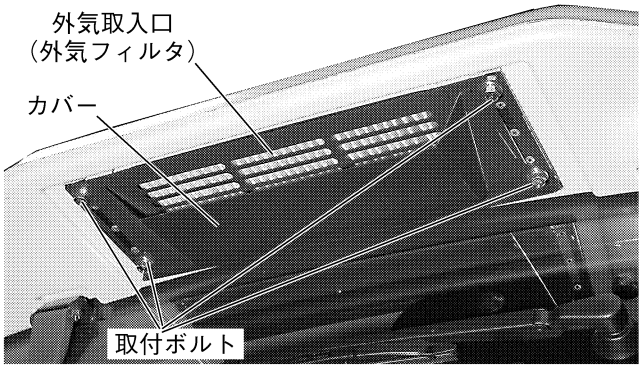
取扱いのポイント

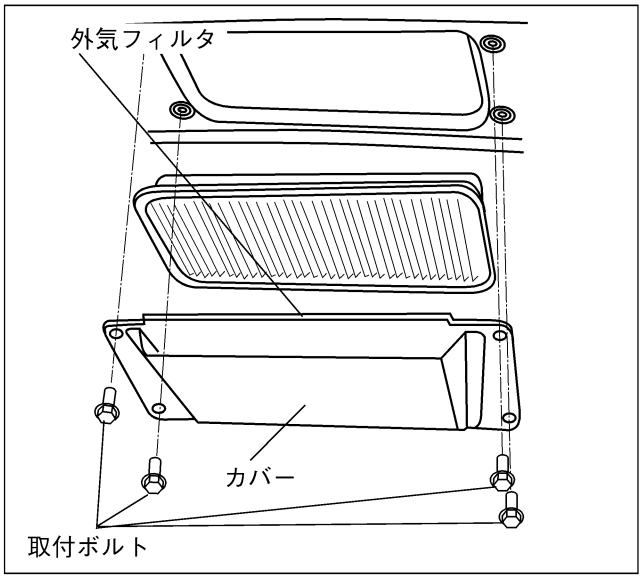
- **汚れがいちじるしい時は，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて，動かしながら洗浄し，清水でよくすすぎます。**
  その後，完全に自然乾燥させてから取付けてください。
- **洗浄にガソリン，シンナー等を使用しないでください。**

4．外気フィルタ

❶ キャビン後方の外気取入口の取付ボルト（4個）を外して，カバーを外します。

❷ 外気フィルタも同時に外れますので圧縮エアで汚れを落とします。





取扱いのポイント

- **汚れがいちじるしい時は，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて，動かしながら洗浄し，清水でよくすすぎます。**
  その後，完全に自然乾燥させてから取付けてください。
- **洗浄にガソリン，シンナー等を使用しないでください。**
- **外気フィルタをたたかないでください。**
  外気フィルタが変形するとエアコンユニットにほこりが侵入し，エアコンを損傷する場合があります。

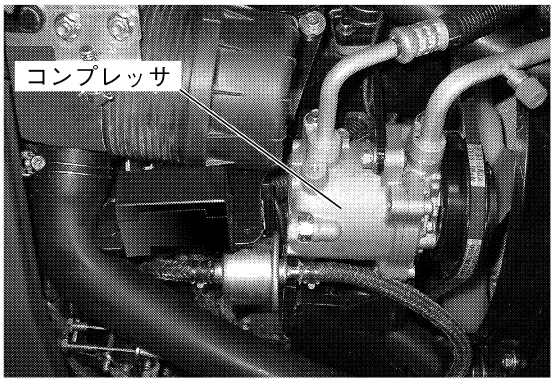
5．コンデンサフィン コンデンサスクリーン

⚠警告 ヤケド防止のために

◆コンデンサフィン・コンデンサスクリーンの掃除をする時は，エンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。

◆コンプレッサ及びレシーバへのスチーム洗浄は，冷媒ガスの圧力が上昇して破裂を引起こし，傷害事故の原因となりますのでスチーム洗浄はさけてください。

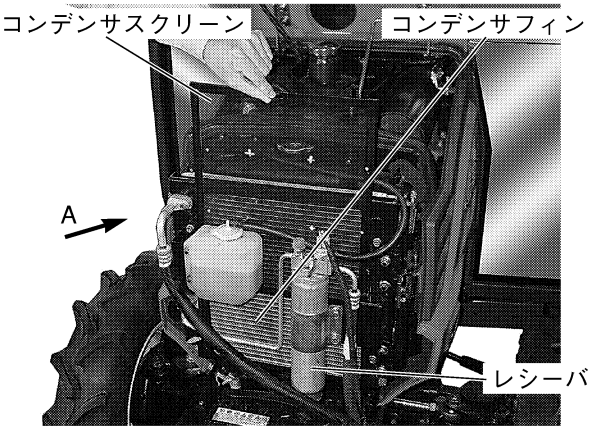
- **［キャビン仕様機］はラジエータフィンを掃除する時にも，コンデンサを回動してから行ってください。**



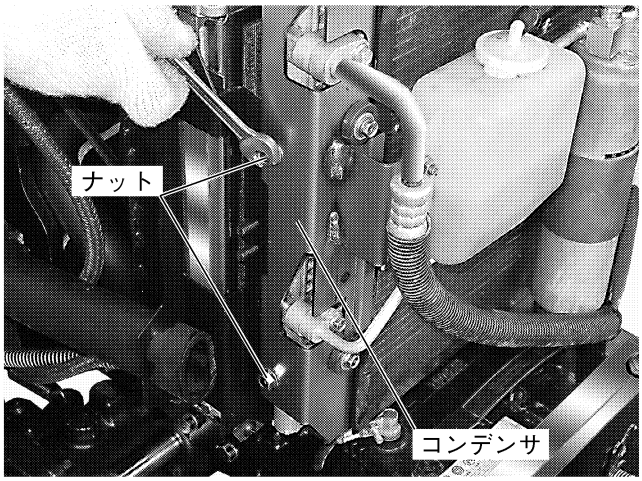
❶ ボンネットを開きます。

❷ コンデンサスクリーンを上方に抜取ります。

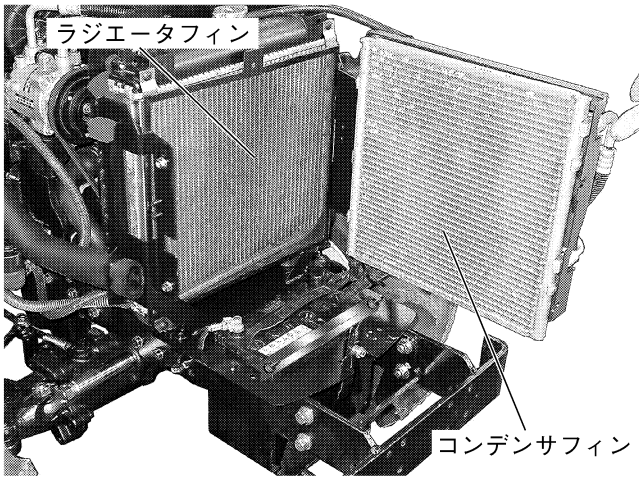
❸ コンデンサスクリーンの「**ゴミ・ワラ**」等を取除きます。



❹　ナット２ヶを外してコンデンサを回動します。



❺　コンデンサフィンの目詰まりを点検し，詰まっている場合は，まずコンデンサフィン前面の手で取れる大きな「**ゴミ・ワラ**」等を取除き，エアを吹きつけ「**ホコリ・ゴミ**」等を取除きます。



❻　ラジエータフィンも❺と同要領で掃除します。

6．ウォーターホース　エアコン配管

⚠警告　ヤケド，火災，傷害事故防止のために

◆ウォータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ウォータホースが外れると，熱湯が吹き出します。

❶　**点検**

(1)　ウォータホース，エアコン配管に老化や傷によるガスもれ，水もれ油もれがないか，また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

取扱いのポイント

- **「お買い上げ先」で点検してください。**

7．ウォッシャ液

キャビン後方にウォッシャタンクがありますので，ウォッシャ液量が減ってきたら補充してください。

・タンクキャップを外し，ウォッシャ液を給水します。

・容量……1.2Ｌ



7．冷媒（ガス）

冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。

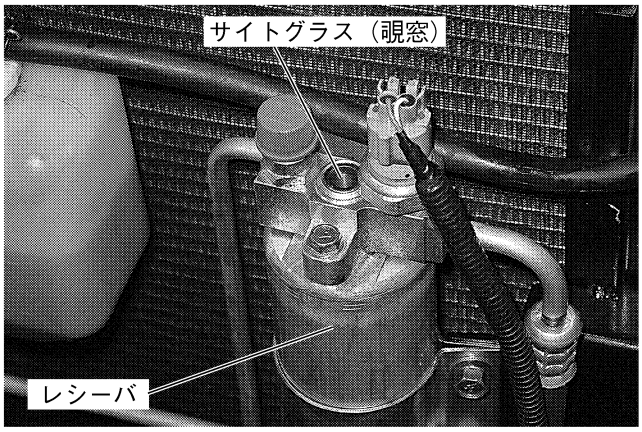
下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，「お買い上げ先」で点検及び補充をしてもらいます。

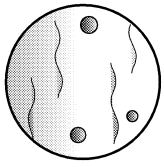
❶点検

⑴ エアコンを以下の条件で運転します。

- **エンジン回転数　　：約1500rpm**
- **温度コントロールレバー：最強冷位置（左端）**
- **ファンスイッチ　　：最強風（ＨＩ）**
- **エアコンスイッチ　　：ＯＮ**

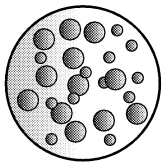
⑵ サイトグラスにより，流れている冷媒の状態を確認します。





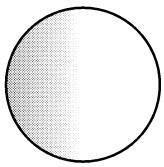
適正

覗窓を覗いて，気泡がほとんど流れてこない状態が正常です。



不足

覗窓を覗いて，気泡が連続的に通過していく場合（気泡が多い）は冷媒不足です。



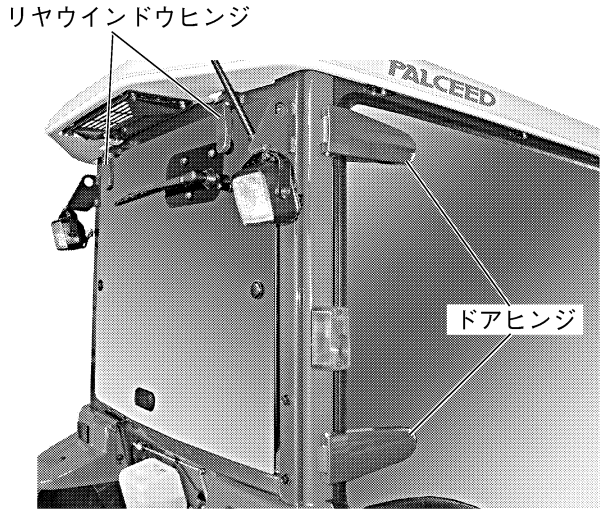
なし

覗窓を覗いて，クーラガスの流れが見えない場合（気泡も全く無し）は冷媒がない状態です。

8．ドアヒンジ　リヤウインドウヒンジ

・ヒンジ部へギヤオイルを適量注油します。（計6個所）

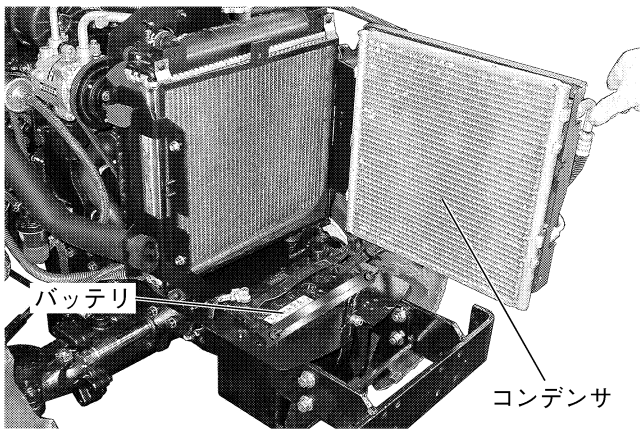
・ドア，リヤウインドウの開閉が重い時，または開閉時に音がする場合は注油します。



9．バッテリー交換

・バッテリー交換はトラクタ本機の取扱説明書の **9. バッテリの点検と充電** を参照して行います。

・［**キャビン仕様**］はコンデンサがバッテリー上部にありますので，ナット2個を外して，コンデンサを回動し，バッテリーの上部に障害物がない状態で作業してください。



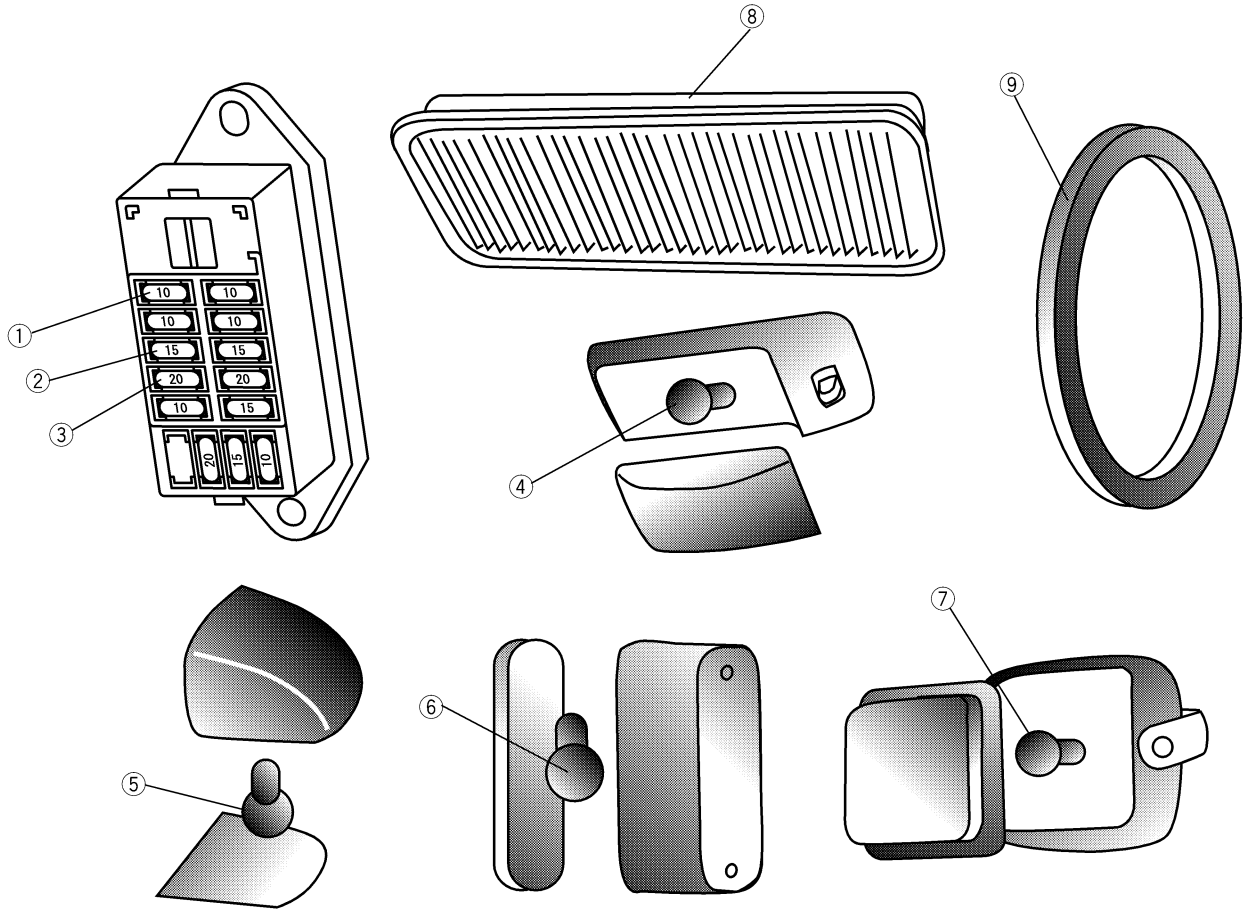
10．不調時の処置

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶各スイッチが作動しない	○ヒューズ切れ	・配線をチェックしヒューズを交換する	13
❷ワイパが作動しない	○ヒューズⒿの溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	13
❸ウォッシャ液が出ない。	○ウォッシャ液不足 ○ヒューズⒿの溶断	・補給する ・配線をチェックしヒューズを交換する	18 13
❹室内灯が点灯しない	○電球（バルブ）切れ ○ヒューズⒼの溶断	・電球（バルブ）を交換する ・配線をチェックしヒューズを交換する	21 13
❺作業灯が点灯しない	○電球（バルブ）切れ ○ヒューズⒾの溶断	・電球（バルブ）を交換する ・配線をチェックしヒューズを交換する	21 13
❻冷・暖房がきかない	○エアコンスイッチが《OFF》になっている	・《ON》にする	10
❼エアコンファンが回らない	○ヒューズⒽの溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	13
❽風量が少ない	○フィルタ目詰まり	・フィルタを掃除する	16〜17

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も合わせて行なってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。

11．消耗品



見出番号	部　品　番　号	部　品　名　称	台当個数	備　　考
①	0980　1001　006	ヒューズ10A	6	予備１個
②	0980　1001　506	ヒューズ15A	4	予備１個
③	0980　1002　006	ヒューズ20A	3	予備１個
④	0980　8120　508	ルームランプバルブ	1	12V 5W
⑤	0980　8121　501	ステップライトバルブ	2	12V 15W
⑥	0980　8122　304	フラッシャランプバルブ	2	12V 23W
⑦	1035　6281　200	作業灯（前・後）バルブ	4	12V 27W
⑧	1044　6145　000	外気フィルタ	1	
⑨	1044　6145　000	コンプレッサベルト	1	ローエッジマルチプライベルト HM型，L＝1245㎜

12. 給油・給脂・給水表

No	箇所	種類	分類		容量	交換時間
			APIサービス分類	SAE粘度番号		
①	ｳｫｯｼｬﾀﾝｸ	ウォッシャ液（市販品）	—	—	1.2L	作業前点検（必要量補給）
②	各ヒンヂ部	ギヤオイル	—	—	適量	作業前点検　50時間ごと給脂
③	ラジエータ	冷却水	—	—	5.8L	作業前点検（必要量補給）

上記以外はトラクター本機の取扱説明書「給油・給脂・給水表」を参照してください。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成15年度
農業・生物系特定産業技術研究機構



型式名：三菱 CF25

合格番号：203024

種　　類：安全キャブ

依頼者名：三菱農機株式会社
住　　所：島根県八束郡東出雲町大字揖屋町667番地1

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型式名

三菱 GS25　　三菱 GS23　　三菱 GS21

2．主要諸元（最大トラクター）

■ 型式名		：	三菱 GS25
■ 種類		：	4輪駆動
■ 質量（キャブ付き）	kg	：	1115
■ 軸距	mm	：	1450
■ 機関出力/回転速度	kW{PS}/rpm	：	18.4{25}/2600

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法

供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介して，クラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
ウインドスクリーン，ドア（両側），後窓を装備。

2．主な装備

シートベルト（2点式），換気装置，暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主要寸法　※

■ 座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		cm：	92.5
■ フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		cm：	133.0
■ 座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅		cm：	81.0
■ ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		cm：	85.0
■ 戸口の幅	（上部）	cm：	84.0
	（中部）	cm：	112.5
	（下部）	cm：	39.0
■ 戸口の高さ	（フートプレートから）	cm：	123.0
■ 最低位ステップの高さ		cm：	33.5
■ キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	cm：	196.5
■ キャブの全幅		cm：	122.0
■ 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		cm：	25.5

※1．三菱 GS25（タイヤサイズ ： 前輪6-14 4PR　後輪9.5-24 4PR）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ： 株式会社大韓，GS16/25シート

4．主要材料

■ 主 フ レ ー ム ： STKR 400, STK 400, STKM 11 A, SS 400, SPHC, SPCC, SPCE
■ 装着ブラケット ： SS 400, SPHC
■ 組立・装着ボルト ： S 45 C

Ⅲ 検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。

■ 基 準 質 量 ： 1130 kg
■ 所要吸収エネルギー ： 後部負荷 1.82 kJ {186 kgf･m}
　　側部負荷 2.69 kJ {274 kgf･m}
■ 圧 壊 力 ： 16.61 kN {1694 kgf}

2）試験後のキャブの永久変位

■ 後 部（前 方 へ） ： 右側 2.5 cm 左側 3.5 cm
■ 前 部（前 方 へ） ： 右側 2.5 cm 左側 3.5 cm
■ 側 部（左側方へ） ： 前側 11.0 cm 後部 8.0 cm
■ 上 部（下 方 へ） ： 前部 右側 0.0 cm 左側 1.5 cm
　　： 後部 右側 0.0 cm 左側 1.5 cm

3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 9.0 cm

2．騒 音 ※

■ 89.5 dB(A) [三菱 GS25]

※ 7.5km/h に近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ 付 記

強度試験はコードⅢにより実施した。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式

機械番号(製造番号)

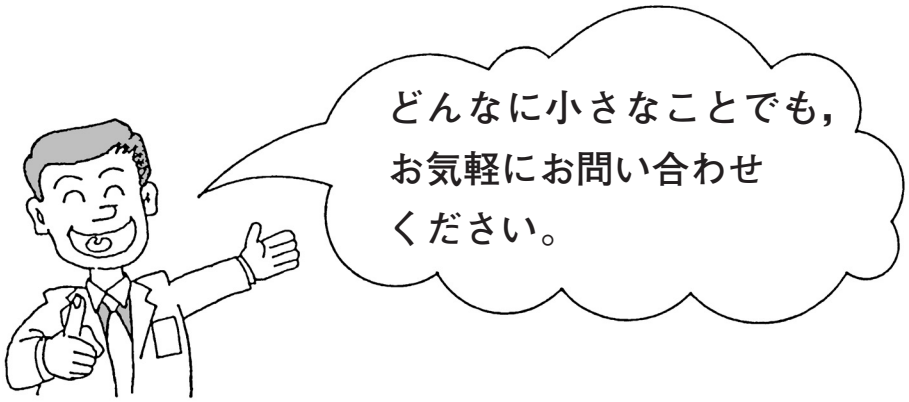
●ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)